

○ 事業所名	柿が丘学園		
○ 保護者評価実施期間	令和6年 12月25日 ~ 令和7年 1月 31日		
○ 保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 27
○ 従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ~ 令和7年 2月 28日		
○ 従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○ 事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員全員がお子さん全員に向き合っかかわり、ひとりひとりの発達や特性に応じて、個別目標を設定し、支援を行う。	支援する職員の全員参加を原則とする個別支援会議を開き、ひとりひとりのお子さんについて、話し合いを丁寧に行い、支援目標や方法を考えている	個別支援会議のアセスメントの質をより高めるとともに、意見を出しやすい雰囲気のなかでより深い話し合いが行えるよう努める。
2	母子通園、単独通園、保育園やこども園・幼稚園等の併用通園等、お子さんのライフサイクルや発達段階に応じた通園形態や方法により、支援を行う。	ご家族と相談して、目的と目標を共有して支援し、必要に応じてモニタリングを行い、方向性や見通しを共有する。	ご家族や社会状況の変化を踏まえながら、必要な支援を保護者の方と考えていく。
3	保育園・こども園・幼稚園への移行や就学時の移行に向けて支援を行う。就園、就学先の選択を相談し、移行を支援する。	保護者の方へ進路に関する情報提供と相談を積み重ね、進路決定後には、就園・就学先への情報提供等を行うとともに、同行支援等の必要な支援を行う。就学については、サポートファイル(すこやかファイル)を使った情報提供を行う。	就園に関しては、インクルージョン推進を意識した移行支援を行う。就学は、ライフステージに応じた適切な支援を受けられるようサポートファイル(すこやかファイル)の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園やこども園、幼稚園との交流や地域のこどもと活動する機会がない。	ひとりひとりのお子さんの入園先や併行通園先の保育園・こども園・幼稚園との連携や支援を重視し、園としての交流の必要性を考えていない。	併行通園先等との連携をさらに進めるとともに、その基盤に立って園としての交流についても検討する。
2	地域の支援事業所や地域住民と連携を図り、地域全体の質の向上に取組む必要がある。	地域の支援事業所等とのネットワークや連携のシステムを構築する必要がある。	市内の他児童発達支援センターや子ども家庭センターと協力し、地域の支援事業所に向けた研修会等行うとともに、支援事業所のニーズやケースに合わせた連携や支援を行う。
3	情報発信や情報共有のためのICT化・デジタル化が進んでいない。	支援の実際に即したシステムや通信環境がない。または、デジタルに関する知識や情報が不足している。	デジタル化の研究や検討を行い、デジタル担当課や財政担当課と必要に応じて相談する。